

■平成28年度子どもの読書活動優秀実践校・図書館・団体(個人)文部科学大臣表彰

この表彰は、子どもの読書活動において優れた実践を行っている学校・図書館・団体(個人)に対し、文部科学大臣がその実績をたたえ表彰するものです。平成28年度子どもの読書活動優秀実践校に、福島県では川俣町立山木屋小学校、郡山市立緑ヶ丘中学校、いわき市立長倉小学校が、図書館に会津若松市立会津図書が、団体に読み聞かせボランティアグループ手のひらの会が選ばれ、文部科学大臣に表彰されました。これまで表彰された学校・図書館・団体(個人)については文部科学省のWebサイト(子ども読書の情報館＞全国の取り組み事例)でご覧いただけます。

子どもの読書情報館 <http://www.kodomodokusyo.go.jp/>

■2016年IBBYオナーリストに福島が描かれた『希望の牧場』が選ばれました。

IBBY(国際児童図書評議会)オナーリストは、外国の子どもに読んでもらいたい各国の優れた児童書を、IBBYに加盟する各国支部が推薦し、世界に発信しているものです。文学作品、イラストレーション作品、翻訳作品の3部門に分かれており、過去3年以内に出版された本の中から選ばれます。『希望の牧場』(森 絵都/作 吉田 尚令/絵 岩崎書店 2014年)は、イラストレーション作品部門に選出されました。その他、文学作品部門に『あたらしい子がきて』(岩瀬 成子/作 上路 ナオ子/絵 岩崎書店 2014年)、翻訳作品部門に『ハーレムの闘う本屋 ルイス・ミショーの生涯』(ヴォーンダ・ミショー・ネルソン/著 原田勝/訳 あすなろ書房 2015年)が選出されています。

IBBY Honour List 2016 <http://www.ibby.org/1562.0.html>

■子どものインターネットの利用に関する調査結果が公開されています。

「平成27年度青少年のインターネット利用環境実態調査」(平成28年3月 内閣府)

平成21年度から青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備を推進するため、満10歳から満17歳までの青少年とその保護者を対象として、情報モラル教育の認知度、フィルタリングの利用度等の調査が実施されています。平成27年度の調査結果によると、青少年の79.7%がいずれかの機器でインターネットを利用し、平均利用時間は約142分となっており、利用する機器はスマートフォンが増加していることがわかります。また、インターネットの利用内容は、高校生では、コミュニケーション(89.9%)、音楽視聴(81.7%)、動画視聴(81.5%)。中学生では、ゲーム(71.1%)、動画視聴(70.5%)、コミュニケーション(62.9%)。小学生では、ゲーム(75.1%)、動画視聴(56.8%)となっています。

青少年のインターネット利用状況実態調査

http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/net-jittai_list.html

平成27年度青少年のインターネット利用環境実態調査

<http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h27/net-jittai/pdf-index.html>

■「福島県立図書館 中学校国語教科書紹介図書所蔵一覧」をご活用ください。

平成28年度に中学校の教科書が改訂されました。県立図書館では、4月から福島県内の中学校で使われている国語の教科書で、紹介されている本の所蔵情報をホームページでお知らせしています。(本文ではなく、“本の紹介”ページに掲載されている本です)

福島県立図書館＞学校図書館への支援＞福島県立図書館小中学校国語教科書紹介図書所蔵一覧

<https://www.library.fks.ed.jp/ippan/jiken/textbook.htm>

イベント・学習会情報

◆親子ふれあい読書フェスティバル 絵本はともだち（講演会）

テーマ：親子で楽しむおはなしのせかい

講師：藤田 浩子氏（幼児教育研究家）

期日：平成28年7月3日（日）13:00-14:30 会場：白河市立図書館 地域交流会議室（多目的ホール）

主催：福島県教育委員会 後援：福島県・白河市教育委員会・福島県公共図書館協会

お問合せ先：福島県立図書館 TEL 024-535-3218

絵本やわらべうた、手遊びなどをまじえて楽しいおはなしをしていただきます。

講演会終了後に、講師の藤田浩子さんと読書活動ボランティアをされている方々との交流会を予定しています。読書活動ボランティアをしている方、これからしたいと考えている方、ぜひご参加ください。

◆2016国際学校図書館協会(IASL)東京大会

大会テーマ：デジタル化時代の学校図書館 (A School Library built for the Digital Age)

期間 2016 年 8 月 22 日(月)～8 月 26 日(金)

会場 明治大学駿河台キャンパス リバティタワー

主催 2016 国際学校図書館協会(IASL)東京大会組織委員会

国際学校図書館協会 (International Association of School Librarianship: IASL) は、世界規模で学校図書館活動の促進を目指す国際機関です。毎年、年次大会・フォーラムを開催し、各国の学校図書館員や教員、研究者ら教育関係者が参加し、学校図書館の効果的活用を議論しています。デジタル化時代における学校図書館について、世界でどのような実践が行われているかを学び、直接話を聞くことができる貴重な機会です。会期中は1日のみの参加もできます。

詳細情報 <http://iasl2016.org/ja/>

実施要綱 <http://iasl2016.org/wp-content/uploads/2015/08/implementation-guidance-jp.pdf>

PICK UP 新着図書の中から

『映画になった児童文学』

川端有子 水間千恵 横川寿美子 吉本和弘 著 玉川大学出版部 2015.10 J909.3/カ

複数映像化されている『不思議の国のアリス』、『若草物語』、『小公子』、『ピーターパン』と原作を比較し、文化史的な視点を取り入れ、社会的、歴史的に分析しています。巻末に、「映像化された児童文学の古典」、「戦後に日本で公開された児童文学を原作とする映画」が掲載されています。

『児童文学とそのマルチメディア化 平成26年度国際子ども図書館児童文学連続講座講義録』

国立国会図書館 国際子ども図書館 2015.9 J909.05/コ

『映画になった児童文学』の著者の一人、川端有子氏をはじめとする講師による講座の記録です。講義録という固いイメージがありますが、話し言葉で書かれているため読みやすく、理解しやすい内容になっています。映像化された『フランダースの犬』、『床下の小人たち』(スタジオジブリ版『借りぐらしのアリエッティ』)、『秘密の花園』などをとりあげ、「言葉の持つ力」と視覚化された映像について問題提起しています。

『「エルマーのぼうけん」をかいた女性 ルース・S・ガネット』

前沢明枝/著 福音館書店 2015.11 930/ガ

初版から70年近く経った今でも、子どもたちをわくわくさせてくれる『エルマーのぼうけん』。その著者の子ども時代に興味はありませんか？ 著者であるガネットさんはインタビューにこう答えています。「母にも父にも、しかられた記憶はないの。覚えているのは、まちがったことをすると、どうしてそんなことをしたのか聞かれたこと。それから、そういうことをしたら、どんなことになるか、いっしょに考えたり、説明したりしてくれたこと。父も母も、わたしたちが小さいときから、大人に話すように接したの」(p.26) 差別や自然破壊などに関心を寄せ、活動をつづけるガネットさんの伝記です。

※新着図書は最新2ヶ月分が福島県立図書館のホームページに掲載されています。トップページの「新着一覧」をご覧ください。